

子宮頸がんHPVワクチン

① 定期接種

サーバリックス（2価）とガーダシル（4価）の2種類があります。

子宮頸がんの原因はヒトパピローマウイルスHPVです。65%は16型、18型です。15歳から19歳の日本人女性の32%が感染しており、性交渉により誰でも1度はHPVに感染します。子宮頸がんの発症は20～30歳代で急増します。セクシャルデビューより前に完了しておくことが大切です。どちらのワクチンでも16型、18型の抗体は92～100%で上昇し、9.4年間は確実に持続、推定では20年持続とされます。ガーダシルは、尖圭コンジローマ（性器の難治性イボ）の原因である6型、11型もカバーします。

定期接種対象：小学6年生～高校1年生

② 任意接種

10歳以上で定期接種対象年齢以外の方、定期接種対象年齢であってもシルガード9を選択した場合です。シルガード9は、上記ガーダシルの4価に加え31、33、45、52、58型を加えた9価です。カバー率は65%から88%に上がります。

重篤な副反応について

因果関係不明のものも含めて1万人当たり5人の重篤な副反応が報告されています。従来から知られている治療可能な副反応の他に、全身広範囲の痛みや不随意運動の報告がありますがワクチンとの関連は証明されていません。

シルガード9は新薬のため、接種者全員の登録が義務付けられています。

料金：サーバリックス、ガーダシル：1回17,200円（税込） 接種回数3回。

シルガード9：1回27,350円（税込） 接種回数3回。

定期予防接種

予防接種法、結核予防法にて市町長の責任で接種することが定められているもの。原則全額公費負担。万一の健康被害はそれらの法律に基づき救済される。法で定めた期間以外のは任意接種扱いとなる。

任意予防接種

定期予防接種以外のもの。自費接種（市町により接種費用助成があるものあり）。万一の健康被害は医薬品副作用被害救済が適応される。日本小児科学会は国に対し、上記の全てを定期予防接種とするよう要望している。